平成 16 年度明石高専海外語学研修プログラム：実現までの経緯と今後の課題

ネバラ・ジョン*　　穐本　浩美*

A Review and Evaluation of the Study Abroad Program for Akashi National College of Technology

John NEVARA, Hiromi AKIMOTO

ABSTRACT

Akashi College of Technology carried out its first study abroad program in March of 2005. This paper reports on the planning, implementation, and achievements of the three-week program conducted at Canada's University of Victoria. While there are some points of concern for future study abroad programs, the initial year can be deemed a success.

KEY WORDS:　study abroad, planning, implementation, achievements

１．はじめに

平成１７年３月、初めて明石高専の海外語学研修プログラムが行われた。高専では珍しい留学プログラムではあったが、今回のプログラムは校内で高い評価を得た。本稿はこのプログラムとプログラム後の研究を兼ねた報告を目的とするものである。

今回、カナダ西部のビクトリア大学での初めての研修プログラムには学生２８名と引率者１名が参加し、学生達は３月７日から２７日まで約３週間、ホスト・ファミリーと過ごして、異文化の体験をしながら約５２時間の英語集中コースに参加した。

２．事前調査

プログラム実現の約１年半前から英語科教員による事前調査が開始された。実現の可能性を確認してから、高専生に合う海外の大学のプログラムを調べるため、留学に関する本や雑誌、インターネットの情報等を参考にした。これらは、基礎知識や留学先の詳細を知るのに役に立った。但し、個人留学向きの記事等が殆どで、学校が開くプログラムの情報はまた別のところを見る必要があった。財団法人日本国際教育協会が編集する「留学交流」というジャーナルの海外留学プログラムについての特集や、他大学、他高専からの情報も役立った。語学関係の学会や海外の大学の留学プログラム関係者が集まる留学相談会・留学フェアへの参加も有益な情報源となった。

留学関連情報を得て、そこから適切な大学を選ぶのは言うまでもなく難しいことである。選択にはいくつかの条件をクリアしなければならない。明石高専の場合、１）留学プログラムが大学校内にある、２）ホームステイができる、３）治安が良い、４）総合大学又は工学専門大学である、５）コストが高すぎない、６）最低1日3時間のレッスン、７）異文化が楽しめるような適切な環境にある、という条件への配慮が必要であった。

候補を絞って、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ、カナダの４カ国の１０大学にメールを送り、大学が上記の条件を満たせるかどうか確認をした。夏又は春に２週間から３週間程度でプログラムの内容等も送ってもらうよう依頼した。条件を考慮に入れ絞り込んでいくと、カリフォルニア大学バークレー校、ビクトリア

*一般科目（英語）

大学、カリフォルニア大学サン・ディエゴ校という３つの大学が候補として残った。いずれも有名大学で、英語研修プログラムもしっかりしている。この三択から当時の３、４年生と専攻１年生の学生の意見を聞くと、バークレーが最も多く５５％程度、ビクトリア大学がそれに続く４０％程度、そしてサン・ディエゴは８％程度にとどまった。極力学生の希望に沿うようにしたかったが、バークレーの短期留学 ESL プログラムが１７年度からなくなるという知らせを大学から聞いたため、カナダのビクトリア大学に決定した。

３．ビクトリア大学について

ビクトリア大学はカナダ西部、バンクーバー島のビクトリア市にある。カナダ本土のバンクーバー市から飛行機、又はフェリーでビクトリア市まで行く。飛行機だと所要時間３０分、７万人強が住んでいる町で、主な産業は観光と言うだけのことはあって、治安が良く気候も非常に良い。

ビクトリア大学自体は１８，０００人の学生を抱える総合大学で、カナダの中でも評判が良く、ESL のプログラムも３０年以上の歴史がある。市も大学も明石高専の学生にとって語学研修を行うのに良い環境であることに間違いはない。

４．事前オリエンテーション

引率者１名で学生２８名が行く予定となった今回の研修に先立ち、出発までの準備を短期間で行う必要があった。海外経験が少なく、パスポート申請についての説明やホスト・ファミリーとの過ごし方等詳細に渡る説明が必要であった。出発前のオリエンテーションを JTB のスタッフと共に計４回行った。スケジュールは下記の通りである。その他にも、３月に英語科教員による最終チェックが行われた。出発４ヶ月前からオリエンテーションを始めるのは大事なポイントだと思われる。毎月１度行うのも良いペースで、その都度新しい情報を学生に伝える事ができた。

表１　事前オリエンテーション内容

実施月	JTB	明石高専
１１月	パスポート申請の説明など旅行準備全般について（1）	語学研修概要説明・ビクトリアについてのビデオと写真
１２月	保険、トラベラーズチェックなど旅行準備全般について（2）	生徒へのオリエンテーリング：事前準備（英語編と持ち物編）、ホームステイ先での注意事項、現地での英語の勉強
１月	旅行準備確認	ホームステイや大学について：プログラムの説明や確認
２月	関西空港について・最終出発確認	ホームステイ先について・ホストファミリーとのすごし方・大学のルール

５．現地にて

飛行機に乗るのは初めてという学生もいたが、全員無事にビクトリアに到着した。現地のビクトリア国際空港で大学の代表者３人とホスト・ファミリーが待っていた。翌日、大学にてプレイスメント・テスト（SLEP という試験）、大学内のツアー、プログラムの詳細説明を受けた。

３週間の研修中、平日は基本的に休憩を含めて朝８：３０から昼の１２：３０まで英語の授業があった。授業内容は日常会話だったが、その中で英語での宣伝広告を作成したり、カナダの文化について習ったりした。

昼１：００ごろから２、３時間程度のアクティビティが用意されていた。例を挙げると、ホッケー観戦やカーリング体験、博物館見学や市内観光等である。アクティビティの後、学生はホスト・ファミリーと過ごしていた。週末はホスト・ファミリー、又は他の学生と一緒にいる者もいた。

ホスト・ファミリーとの問題、授業での問題が予想されたが、なかったと言える。ホスト・ファミリーが高専の学生にとって満足のいく対応で接してくれた。プログラムの先生やスタッフも高専を誉めてくれた。明石高専の学生ほど真面目に勉強に取り組む学生は少ないとのことだ。

６．事後のケア

プログラムを修了し日本への帰国後、参加学生へのアンケート調査を行った。アンケート項目は「事前準備編」、「ホームステイ生活編」、「学校生活編」、「プログラム全般編」、「後輩へのメッセージ」の５項目で、合計２４の質問からなるアンケート（Appendix 参照）に全て記述式で回答を求めた。以下にアンケート結果の抜粋を列記し、英語学習やプログラムに対する学生の意識を探ってみたい。

6.1　事前準備

アンケート結果からのみでは断定出来ないが、英語に関しての事前準備が不十分であるという印象は払拭出来ない。現地に行くまでにどれだけ英語力を伸ばせるかによって現地での授業や生活、その他の活動に差が出てくるため、次回からは学生個人に委ねるだけでなく早い段階での英語指導も必要と考えられる。

Q1.　ホームステイ前に英語の勉強はどれくらい、またどんなことをしましたか？

- ○　日常生活の単語を少し覚えた。
- ○　年明けくらいから市販のＣＤ付教材で１日30分くらい。
- ○　単語を覚えるより生活で言うような文を丸暗記。
- ○　スピーキング、リスニング（ラジオ講座）を普段から毎日こつこつと。
- ○　気が向いた時のみ（週２時間程）、市販の英語学習雑誌でリスニングの練習。
- ○　自分で使えそうな表現をピックアップして表現集を作った。（Ａ４用紙で７枚）

Q2.　こんな勉強（英語に限らず）をしておいたらよかった、と思うものは何ですか？

- ○　とりあえず単語力とそれをある程度正確に発音出来ること。
- ○　リスニングの練習。
- ○　ボキャブラリーを増やす勉強。
- ○　日本についての知識は深くなくていいから幅広い方がいいと思った。
- ○　カナダの文化について学ぶ。

6.2　ホームステイ生活

日本での生活習慣がそのまま通用しないことは研修前から容易に想像がつくことであるが、実際にそれを体験してみて学生なりに得るものが多かったのではと推察される。

Q2.　ステイ先での約束事を教えて下さい。
（洗濯はどのようにしたか、どんなお手伝いをしたか、日本への連絡方法、生活上気をつけるべきことなど）

- ○　洗濯は自分でする。
- ○　帰りが遅くなる時は連絡する。
- ○　小さな子供がいるのでシャワーは20:00までに使う。
- ○　夕食を家でとるかどうかをホストファミリーに必ず伝えること。
- ○　シャワー、電話は10分以内。
- ○　シャワーを使った後はきれいにする。
- ○　シャワーを浴びる時、水を大切に。

Q4.　ホストファミリーとのコミュニケーションについて教えて下さい。
（ホストファミリーとうまくいかなかったことがあったか、またその際、どう対処したか、ホストファミリーの英語は何パーセントぐらい分かったかなど）

- ○　最初の方は聞き取れないことが多く何回も説明してもらったり、辞書で説明したりしていたけど、最後の方になると結構聞き取れるようになった。でもホストファミリー同士の会話はほとんど分からなかった。
- ○　子供の英語がわかりにくかった。
- ○　話題のなさに困った。
- ○　英語は想像以上に速い。最初は全くだったが最後は少しましになった。

Q5.　ステイ中に心がけたこと、またこれだけは気をつけたほうがいい、ということがあれば具体的に教えて下さい。

- ○　ホストファミリーの前では日本語を使わない方がよい。
- ○　わからなかったらすぐ聞くか、すぐ辞書を引くようにした。
- ○　なるべくリビングにいた。
- ○　引きこもらない。
- ○　日本人同士でも英語で会話をしてみる。
- ○　シャワーの後、毛が落ちていないかチェックした（最低限のマナーかと）。
- ○　朝起きるのがステイ先のファミリーより早い時は携帯のバイブレーションで起きた方が良いと思う。
- ○　ホストファミリーに無駄な心配をさせないようにする。
- ○　ホストファミリーが誘ってくれた時は出来るだけ一緒に行く。

6.3　学校生活

学校での授業の実用的な内容を肯定的にとらえた意見がある反面、日本での英会話の授業と大差がなく、またより簡単である、との否定的意見も見受けられる。本プログラムを英語の授業という観点からのみ判断すれば、日本での授業と大差がないのであれば敢えて英語圏の国でコースを受講する必然性も薄れてくる。ただしアンケートの意見にもあるように、その日習った英語がその日のうちにステイ先で使える、という英語圏ならではのメリットが存在することも事実であり、単に授業内容だけでプログラム全体の良し悪しは判断出来ない。

Q2.　授業の様子はどんな感じでしたか？（高専の授業と比較しても構いません）

○ 先生が一方的に話すのではなく、場面を設定してみんなで会話をしたり、グループを作って、その中で話をしたり発表したりなど。
○ 集中していないとわからなくなる。
○ 内容は高専と比べても簡単なもので、「使える」ようになることに重点が置かれていた。みんな自分の意志で来ているメンバーなので、普段より積極的になりやすい雰囲気だったと思う。
○ 小規模なため非常に発言しやすかった。
○ 内容的には日本でやる英会話の授業とあまり変わらなかった。
○ とても簡単だった。
○ 高専の英会話の授業よりもおもしろくなかった。

Q3. 受けた授業の中で興味深かったもの、役立つもの、是非受けるべきもの、があれば教えてください。

○ プレゼンテーションとCM作り。
○ 日本では習わない日常会話の表現。
○ 映画を観たこと。映画の前にその映画に出てくる単語を大学の人に聞く、というのが面白かった。
○ その日のうちにステイ先で使えるものがありました。例えば、味の言い方や気分の表現などです。

Q5. 着いたばかりの時と帰る時とでは、授業中の先生の英語に対する理解度にどれくらい差が出ましたか？

○ 耳が慣れてくるので早い英語も聞き取れるようになった。
○ あまり差はなかった（最初からわかりやすかったため）。
○ だいたい理解できるようになった。
○ かなりあった。
○ 60% ⇒ 99%
○ 4割 ⇒ 8割くらい
○ リスニングについては少し力がついた気がした。
○ 急激な変化はありませんでした。
○ かなり違う。初めは全く速さについていけなかった。

6.4 プログラム全般

現地での生活において日本語使用のデメリットを説くケースは多いのであるが、本校学生の日本語使用頻度もかなり多いと判断される。そのようなデメリットを差し引いても「外国の文化に興味を持つことが出来た」、「今後の英語の勉強への態度がよくなる」、「英語をもっと勉強したいと思うようになった」などといった英語学習に対するモティベーションが上がった事実も大切にしたい。日本の教育機関が数年かかっても学生に植え付けることが困難な英語学習への動機付けも、現地での語学プログラムは数週間でいとも簡単に達成してしまう。また実際の英語力そのものよりも、その後に自律した学習者を育てるという見地に立てば本プログラムが果たす意義も大きいと考えられる。

Q1. 研修中、他の日本人の友達とどれくらい接しましたか？（つまり日本語でどれくらい話したか？）

○ 学校がある日：5時間、ない日：ほぼ。
○ 昼からの授業はずっと日本語かもしれない。
○ 授業中は英語でそれ以外のほとんどは日本語で話した。
○ 結構多い。（他多数）
○ 一日の半分くらい。
○ 基本的に自由時間は日本人の友達といて日本語を話していました。
○ 毎日、だいたい。一家庭に（日本人が）二人というのはまずい。
○ 日本人同士でも初めは英語でしゃべるようにしていたけど、途中で意思伝達するのにたくさん時間がかかるとか、すぐ伝えたいけど伝わらない状況とかになったりしてやめた。

Q2. 研修で英語力はどれくらい伸びたと思いますか？

○ リスニング力が大幅に伸びた（他多数）気がするが、日本に帰ってくるとすぐに大幅に下がった。
○ 聞く力は伸びたけど、話す力はあんまり。
○ 表現が増えた。
○ ほとんど伸びなかった。
○ 今までの３０%くらい伸びた。
○ 単純な英語力はそれほど伸びていないが、経験したことで自信はついた。
○ スピーキングは何とも言えないが、何とかなるという自信はついた。
○ 英語で話すことには全く抵抗を感じなくなった。
○ あまり伸びたように思いません。むしろ研修前の勉強によって、英語力は伸びました。
○ スピーキングは上達したというより、話すことに臆さなくなったのがよかった。
○ 日常会話でよく使う May…, Could you… がすぐ出るようになった。

Q3. 研修を受けて、英語に対する考え方や勉強の仕方に変化がありましたか？それはどのような変化ですか？

○ とにかく単語を知らないと話にならないと感じた。
○ 難しい文法や単語よりもっと「使える」ものをたくさん勉強したいと思うようになったが、実際には日本でそれをするのはちょっと無理だと思う。（何が「使える」のか分からない）
○ 外国の文化に興味を持つことが出来たので、今後の英語の勉強への態度がよくなると思う。

○　向こうで非常に感じたことなのですが、英語で自分の意見を述べることが全く出来ませんでした。つまり主張が出来ないのです。このことで僕は英語を勉強したいと思うようになりました。
○　単語は意味だけでなく発音をしっかりマスターすることが大事だと思った。

04.　研修を通して、自分が変わったと感じることがあれば教えてください。

○　英語をもっと勉強したいと思うようになった。（他多数）
○　日本のよさや悪さなどが分かった。
○　少し積極的に何事も取り組むようになったと思う。

７．今後の課題

明石高専で初めての留学プログラムが実現し、学生の英語運用能力と異文化体験にも結びついたと考えられる。しかし今後、検討しなければならない課題も山積している。

先ず、このプログラムが１年で終わるか、１年毎又は２年毎に行うかという問題である。２８人が参加したのは想像した人数を大幅に越えていた。最初の１年だったという理由もあるが、高専生が海外や英語に興味があるという事実も否定できない。

定期的にプログラムを実施するにしても、必ずビクトリア大学が良いという訳でもない。他にも優れているESL プログラムがたくさんある。

期間も３週間というものが確定ではないが、英語を身につけるのに２週間は短く、４週間も行けないという学生が多いため、やはり３週間が妥当ではないかと思われる。また３月に行うか７、８月に行うかという別の議論も存在する。但し、両期間とも問題はある。事前アンケートが示したように、３月が都合が良いと答えた学生が多いが、引率する教員にとって３月は忙しい時期である。引率教員が担任になっている場合、７、８月の方が動きがとりやすい。しかし、現地のプログラムにとって留学生が少ない３月は有り難い時期でもあり、飛行機代も大いに安くなることから学生へのメリットも軽視できない。

一方で、引率者が必要でなければ、学生とプログラムの都合だけを考えれば良い。また学校が引率者の経費を負担することが重荷になるというのも事実である。しかし教員が引率しているということで、参加学生の保護者に安心感を与えることが出来るというメリットも軽視出来ない。今回は学生に問題が起こらなかったので引率者の必要性は薄かった。

奨学金も全部で５０万円程度であったため、１人２万円弱の補助であった。費用面で参加しやすかったかどうか議論しなければならない。奨学金の必要性をもう一度問う時である。

学校側の負担だけではなく、学生の負担する値段も考える必要がある。１人４０万円程度というコストは高い。プログラムの充実差を変えずにもっと安くできるかどうか検討しなければならない。

また、学生が気になるのは単位のことだろう。留学プログラムから成績も最後にもらうので、履修単位１、２単位を取得出来れば、参加する励みにもなる。珍しくない制度であるため今後検討すべきである。

この他にも、考察する点はあるが、先ず留学プログラムを続けるかどうかから始めたい。平成１７年の３月のプログラムの全体を考えたら、定期的に行うのは学生にとっても、高専にとっても意義があるのではないかと思われる。

Appendix

《1．事前準備編》

Q1．　ホームステイ前に英語の勉強はどれくらい、またどんなことをしましたか？

Q2．　こんな勉強（英語に限らず）をしておいたらよかった、と思うものは何ですか？

Q3．　ホストファミリーから聞かれた質問にはどんなものがありますか？

Q4．　ホストファミリーへのお土産として何を持っていきましたか？　また金額はどれくらいですか？

Q5．　研修中に使ったお小遣いはどれくらいですか？

Q6．　研修にこれだけは持参する必要あり、持っていけば便利だったと感じたものは何ですか？

《2．ホームステイ生活編》

Q1．　ステイ先の様子を教えて下さい。
（ホストファミリーとの初対面の様子、家の様子、与えられた部屋の様子など）

Q2．　ステイ先での約束事を教えて下さい。
（洗濯はどのようにしたか、どんなお手伝いをしたか、日本への連絡方法、生活上気をつけるべきことなど）

Q5．　ステイ先での食事について教えて下さい。
（食べられないものが出てきた時はどう対処したか、ホストファミリーと外出・外食した時の費用はどうしたか、日本料理を作る機会があったか、など）

Q6．ホストファミリーとのコミュニケーションについて教えて下さい。
（ホストファミリーとうまくいかなかったことがあったか、またその際、どう対処したか、ホストファミリーの英語は何パーセントぐらい分かったかなど）

Q7．ステイ中に心がけたこと、またこれだけは気をつけたほうがいい、ということがあれば具体的に教えて下さい。

《3．学校生活編》

Q1．　学校での１日のタイムテーブルは？

Q2．　授業の様子はどんな感じでしたか？（高専の授業と比較しても構いません）

Q3．　受けた授業の中で興味深かったもの、役立つもの、是非受けるべきもの、があれば教えてください。

Q4．　授業中、先生の英語は何パーセントぐらい分かりましたか？

Q5．　着いたばかりの時と帰る時とでは、授業中の先生の英語に対する理解度にどれくらい差が出ましたか？

Q6．　受講にあたって気をつけなければならないことは何ですか？

Q7．　アトラクション（学外の見学）で興味深かったもの、それほどでもなかったものを教えて下さい。

《4．プログラム全般編》

Q1．　研修中、他の日本人の友達とどれくらい接しましたか？（つまり日本語でどれくらい話したか？）

Q2．　研修で英語力はどれくらい伸びたと思いますか？

Q3．　研修を受けて、英語に対する考え方や勉強の仕方に変化がありましたか？それはどのような変化ですか？

Q4．　研修を通して、自分が変わったと感じることがあれば教えてください。

Q5．　研修を通して学んだり経験したことで、今後に役立つことがあれば教えてください。

《5．後輩へのメッセージ》

これだけは準備しておいた方がいい、現地でこれだけは心がけた方がいい、など何でも結構です。これから研修に行く皆さんの後輩へメッセージをお願いします。